

(様式42)

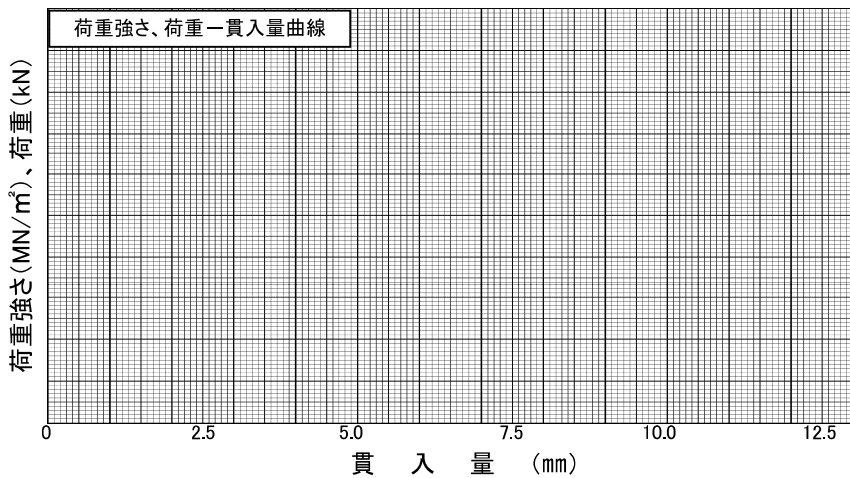
現場 C B R 試験  
(JIS A 1222)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

貫入スピンドル直径 cm	貫入スピンドル面積 m <sup>2</sup>	貫入速度 mm/min	
ジャッキの種類	ジャッキの能力 kN	反力装置の種類	
荷重計容量 kN	荷重計の MN/m <sup>2</sup> /目盛 校正係数 kN/目盛	天	候

測点 NO.				測点 NO.				
貫入量の読み mm		貫入量の読み の平均値 mm	荷重計の 読み	荷重強さ, 荷重 MN/m <sup>2</sup> ,kN	貫入量の読み mm		荷重計の 読み	荷重強さ, 荷重 MN/m <sup>2</sup> ,kN
1	2				1	2		
0.0					0.0			
0.5					0.5			
1.0					1.0			
1.5					1.5			
2.0					2.0			
2.5					2.5			
3.0					3.0			
4.0					4.0			
5.0					5.0			
7.5					7.5			
10.0					10.0			
12.5					12.5			
貫入量2.5mmにおけるCBR %				貫入量2.5mmにおけるCBR %				
貫入量5.0mmにおけるCBR %				貫入量5.0mmにおけるCBR %				
CBR %				CBR %				
試験箇所の含水比 w %				試験箇所の含水比 w %				



貫入量mm	2.5	5.0
荷重計測点 測点 測点 測点 測点		
標準荷重強さ MN/m <sup>2</sup>	6.9	10.3
標準荷重 kN	13.4	19.9

特記事項

[1kN ≒ 102kgf]  
[1MN/m<sup>2</sup> ≒ 10.2kgf/cm<sup>2</sup>]

(社)地盤工学会規格準用

(様式43)

道路の平板載荷試験  
(JIS A 1215)

試験日 平成 年 月 日

工事名 測定番号

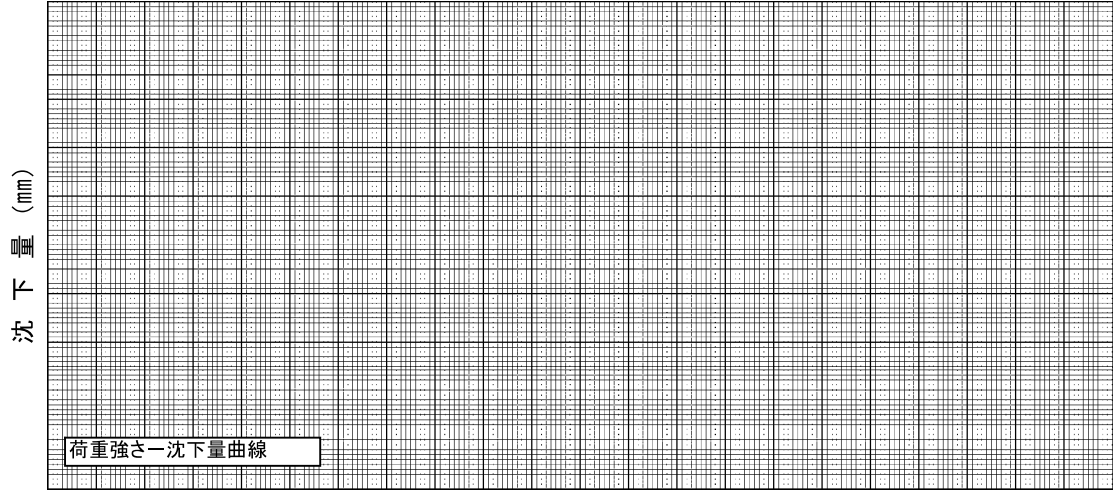
請負会社名

工種名 測定場所

測定者 印

載荷板の形状		載荷板の直径 cm		載荷板の面積 A m <sup>2</sup>			
ジャッキの種類		ジャッキの能力 kN		反力装置の種類			
荷重計容量 kN		荷重計の 校正係数 K kN/m <sup>2</sup> /目盛		天候			
計算に用いた沈下量 Smm		荷重強さ p kN/m <sup>2</sup>		地盤反力係数 K <sub>s</sub> MN/m <sup>3</sup>			
時間	荷重計の読み R	荷重強さ p=KR kN/m <sup>2</sup>	変位計の読み mm				沈下量 mm
			1	2	3	4	

荷重強さ (kN/m<sup>2</sup>)



特記事項

$$K_s = p/S$$

$$[1\text{kN/m}^2 \equiv 0.0102\text{kgf/cm}^2]$$

$$[1\text{MN/m}^3 \equiv 0.102\text{kgf/cm}^3]$$

(社)地盤工学会規格準用

(様式44)

土の直接せん断試験

工事名 \_\_\_\_\_  
 調査名・目的 \_\_\_\_\_  
 試料番号 \_\_\_\_\_  
 試料 \_\_\_\_\_ 料 ・乱さない ・乱した  
 試料採取深さ \_\_\_\_\_  
 試験機の型 \_\_\_\_\_  
 供試体の断面積 \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>  
 供試体初期厚さ \_\_\_\_\_ cm  
 供試体初期体積 V \_\_\_\_\_ cm<sup>3</sup>  
 水の密度 ρ<sub>w</sub> \_\_\_\_\_ g/cm<sup>3</sup>

試験 日 平成 年 月 日  
 試験方法 : 圧密排水・圧密非排水・非圧密非排水  
 せん断方法 : 応力制御・ひずみ制御  
 せん断速さ(载荷速さ \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>/min)  
 せん断力測定用ブルーピングリング NO \_\_\_\_\_  
 換算係数 \_\_\_\_\_ kN/  $\frac{1}{100}$  mm (kN/m<sup>2</sup>/目盛)  
 先行圧密応力 \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>  
 土粒子の密度 G<sub>s</sub> \_\_\_\_\_ g/cm<sup>3</sup>  
 請負会社名 \_\_\_\_\_  
 測定者 \_\_\_\_\_ 印

供試体番号		1	2	3	4	5	6
初期の状態	供試体質量 m g						
	湿潤密度 ρ <sub>t</sub> = $\frac{m}{V}$ g/cm <sup>3</sup>						
	含水比 w %						
	乾燥密度 ρ <sub>d</sub> = $\frac{100 \cdot \rho_t}{100 + w}$ g/cm <sup>3</sup>						
	間隙比 e = $\frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d} - 1$						
飽和度 s <sub>r</sub> = w · G <sub>s</sub> / e %							
圧密の状態	せん断時の垂直応力 σ kN/m <sup>2</sup>						
	载荷(圧密)時間						
	沈下量 cm						
圧密後の状態	供試体体積 V' cm <sup>3</sup>						
	供試体質量 m' g						
	湿潤密度 ρ <sub>t</sub> ' = $\frac{m'}{V'}$ g/cm <sup>3</sup>						
	含水比 w' %						
	乾燥密度 ρ <sub>d</sub> ' = $\frac{100 \cdot \rho_t'}{100 + w'}$ g/cm <sup>3</sup>						
間隙比 e' = $\frac{G_s \cdot \rho_w}{\rho_d'}$							
飽和度 s' <sub>r</sub> = w' · G <sub>s</sub> / e %							
せん断時の垂直応力 kN/m <sup>2</sup>							
せん断強さ τ kN/m <sup>2</sup>							

粘着力 C = \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>  
 内部摩擦角 φ = \_\_\_\_\_  
 tan φ = \_\_\_\_\_  
 先行圧密応力に対するせん断強さ  
 τ<sub>o</sub> = \_\_\_\_\_ kN/m<sup>2</sup>

注) 含水比の測定は含水量測定試験試料は標準欄フルイ25.4mm  
 [ ] による

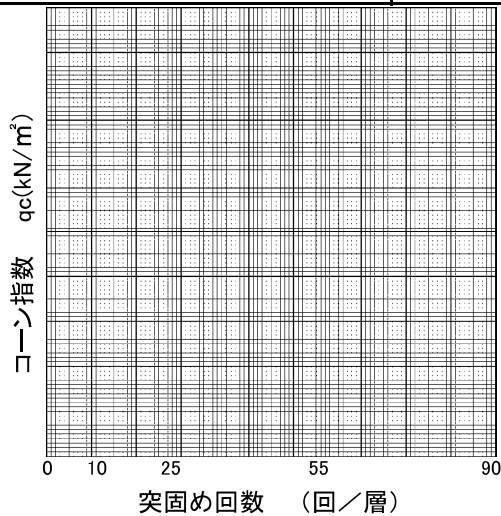


(様式46)

**締固めた土のコーン指数試験**  
(JIS A 1228、JGS 0716)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_  
 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 採取日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

土質名称		モ ー ル ド	NO.		荷 重 計	NO.		
土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>			容 量 V cm <sup>3</sup>	1000		容 量 N		
コーンの底面積 A m <sup>2</sup>	3.24		(モールド+底板)質量 $m_1$ g			較正係数 K N/目盛		
突 固 め 回 数 回/層			10	25	55	90		
含 水 比	容 器 NO.							
	(試料+容器)質量 $m_a$ g							
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$ g							
	容 器 質 量 $m_c$ g							
	w	%						
平均値 w	%							
供 試 体	(供試体+モールド+底板)質量 $m_2$ g							
	湿 潤 密 度 $\rho_t$ g/cm <sup>3</sup>							
	乾 燥 密 度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>							
	飽 和 度 $S_r$ %							
空 気 間 隙 率 $v_a$ %								
コ ー ン 指 数	貫入抵抗 力 N	貫入量	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力	荷重計の読み	貫入抵抗力
		5 cm						
		7.5 cm						
		10 cm						
	平均貫入抵抗力 $Q_c$	N						
コ ー ン 指 数 $q_c$	kN/m <sup>2</sup>							



特記事項

- 1) 突固め回数が1種類の場合は記入の必要はない

水の密度  $\rho_w$  g/cm<sup>3</sup>

$$w = [(m_a - m_b) / (m_b - m_c)] \times 100$$

$$\rho_t = \frac{m_2 - m_1}{V}$$

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w/100}$$

$$S_r = \frac{w}{\rho_w / \rho_d - \rho_w / \rho_s}$$

$$v_a = \left\{ 1 - \frac{\rho_d}{\rho_w} \left( \frac{\rho_w}{\rho_s} + \frac{w}{100} \right) \right\} \times 100$$

$$q_c = \frac{Q_c}{A} \times 10$$

[1kN ≒ 102kgf]

[1kN/m<sup>2</sup> ≒ 0.0102kgf/cm<sup>2</sup>]



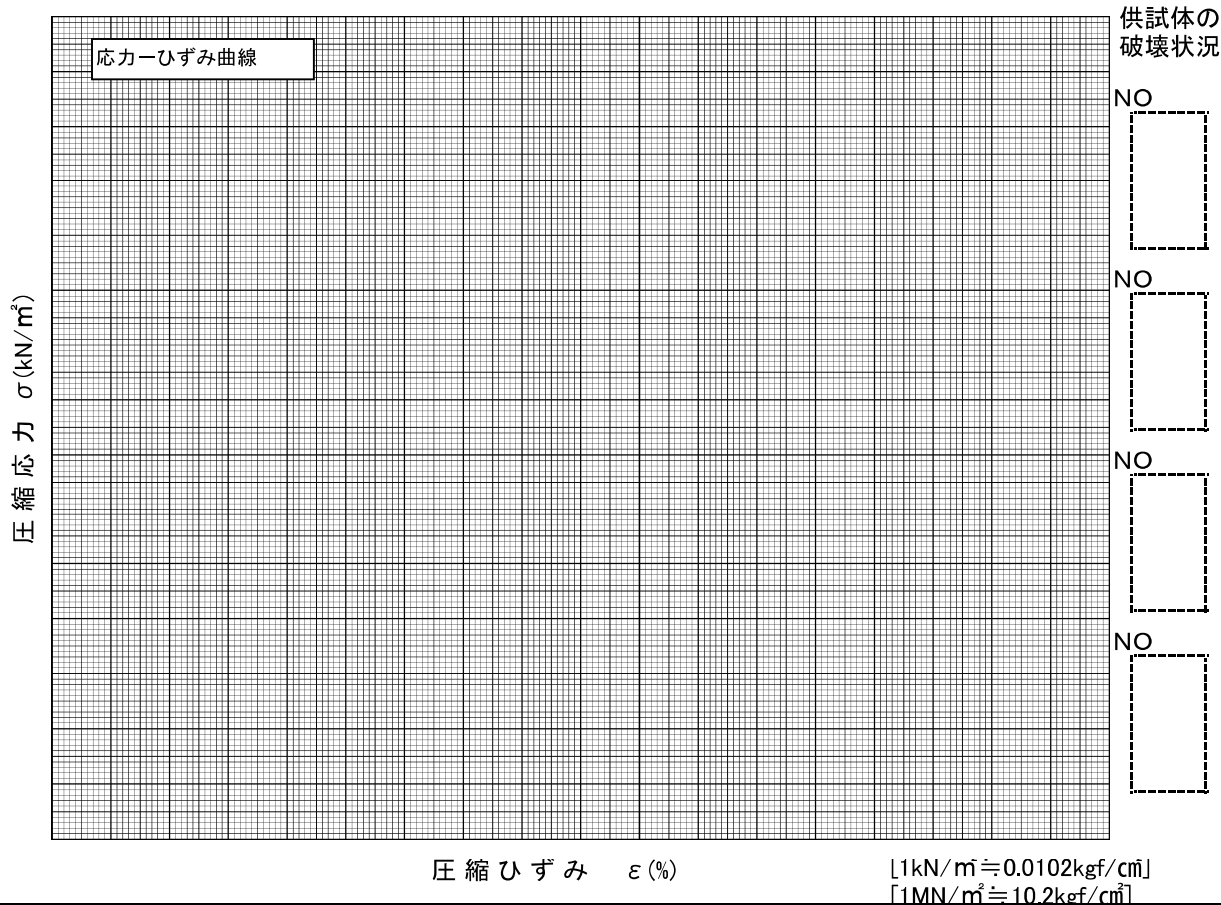
(様式48)

土の一軸圧縮試験(強度・変形特性)  
(JIS A 1216、JGS 0511)

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

土質名称		供試体 NO.			
液性限界 $w_L^{(1)}$ %		試験の状態			
塑性限界 $w_p^{(1)}$ %		高さ $H_0$ cm			
ひずみ速度 %/min		直径 $D_0$ cm			
特記事項 1)必要に応じて記載する。  $E_{50} = \frac{q_u}{\frac{2}{\epsilon_{50}}} / 10$		質量 m g			
		湿潤密度 $\rho_t^{(1)}$ g/cm <sup>3</sup>			
		含水比 w %			
		一軸圧縮強さ $q_u$ kN/m <sup>2</sup>			
		破壊ひずみ $\epsilon_f$ %			
		変形係数 $E_{50}^{(1)}$ MN/m <sup>2</sup>			
		鋭敏比 $S_t^{(1)}$			



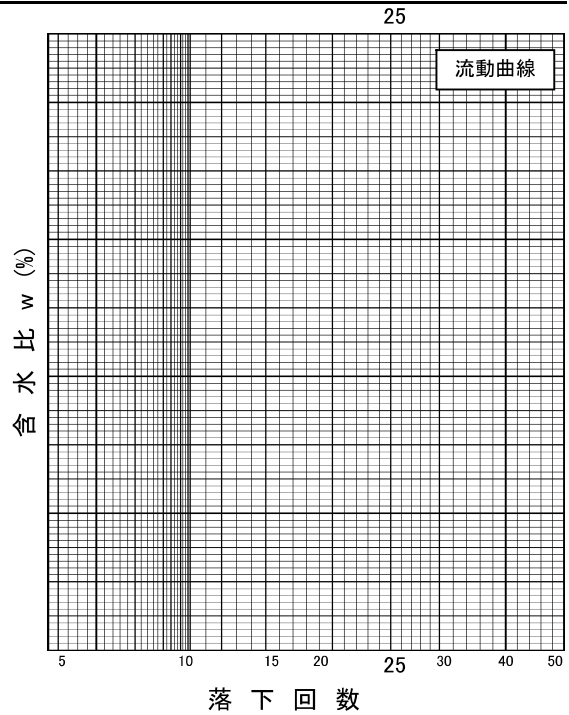
(様式49)

土の液性限界・塑性限界試験(測定)  
(JIS A 1205、JGS 0141)

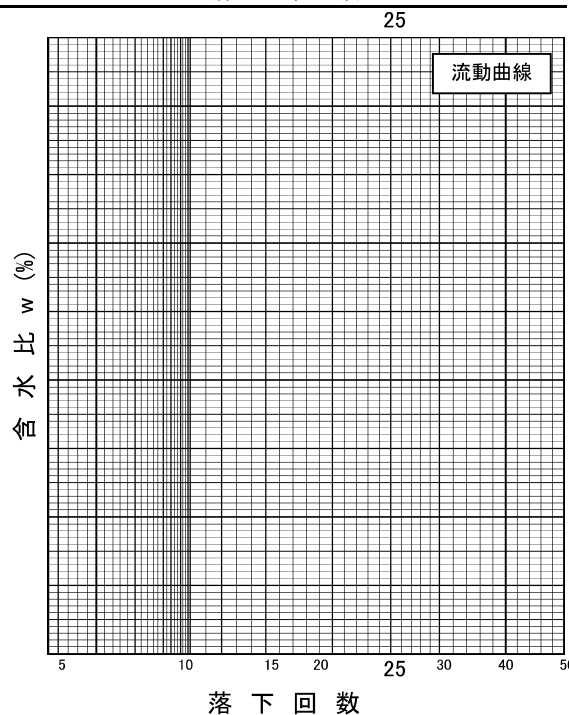
工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
塑性限界試験			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
液性限界 $W_L$ %	塑性限界 $W_P$ %	塑性指数 $I_p$	



試料番号(深さ)			
液性限界試験			
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
落下回数			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
塑性限界試験			
含水比	容器 NO.		
	$m_a$ g		
	$m_b$ g		
	$m_c$ g		
	w %		
液性限界 $W_L$ %	塑性限界 $W_P$ %	塑性指数 $I_p$	



特記事項 \_\_\_\_\_  $I_p = W_L - W_P$   $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$   $m_a$  : (試料+容器)質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量  
 $m_c$  : 容器質量



(様式50)

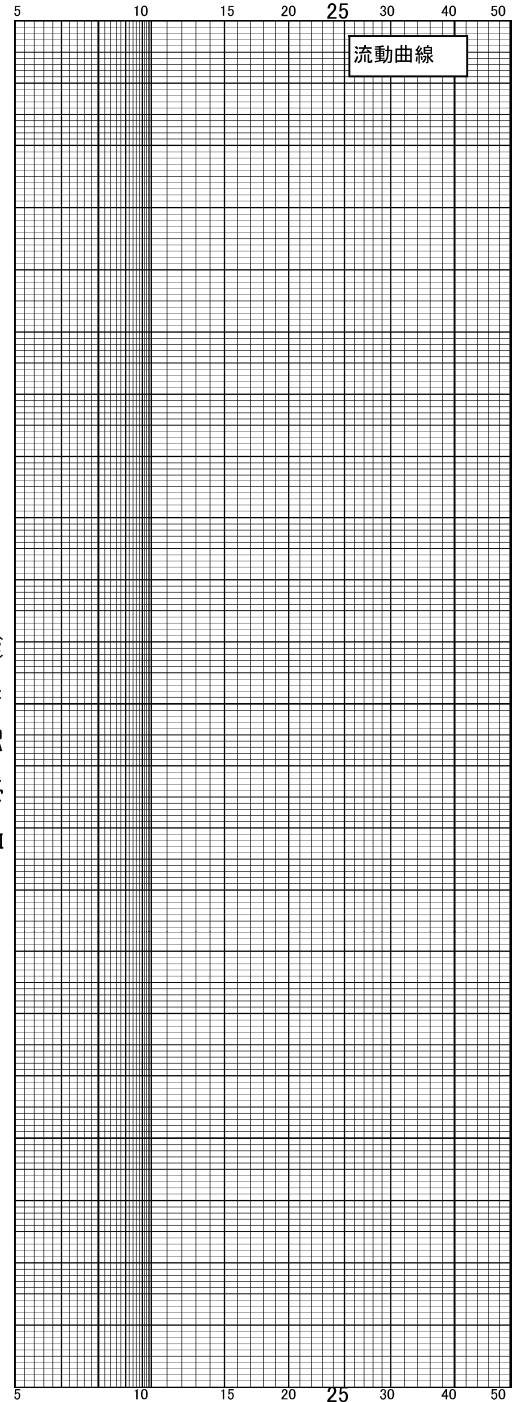
土の液性限界・塑性限界試験(試験結果)  
(JIS A 1205、JGS 0141)

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日  
工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)

液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %
		塑性限界 $W_p$ %
		塑性指数 $I_p$

落下回数



試料番号(深さ)

液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %
		塑性限界 $W_p$ %
		塑性指数 $I_p$

試料番号(深さ)

液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %
		塑性限界 $W_p$ %
		塑性指数 $I_p$

試料番号(深さ)

液性限界試験	塑性限界試験	液性限界 $W_L$ %
落下回数	含水比 $w$ %	含水比 $w$ %
		塑性限界 $W_p$ %
		塑性指数 $I_p$

特記事項

(様式51)

土粒子の密度試験(検定、測定)  
(JIS A 1202、JGS 0111)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号(深さ)							
ピクノメーター NO.							
ピクノメーターの質量 $m_f$ g							
(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m'_a$ g							
$m'_a$ をはかったときの蒸留水の温度 $T'$ °C							
$T'$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm <sup>3</sup>							
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_b$ g							
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C							
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm <sup>3</sup>							
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$ g							
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.						
	(炉乾燥試料+容器)質量 g						
	容器質量 g $m_s$ g						
土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>							
平均値 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>							

試料番号(深さ)							
ピクノメーター NO.							
ピクノメーターの質量 $m_f$ g							
(蒸留水+ピクノメーター)質量 $m'_a$ g							
$m'_a$ をはかったときの蒸留水の温度 $T'$ °C							
$T'$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T')$ g/cm <sup>3</sup>							
(試料+蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_b$ g							
$m_b$ をはかったときの内容物の温度 $T$ °C							
$T$ °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T)$ g/cm <sup>3</sup>							
温度 $T$ °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター)質量 $m_a$ g							
試料の 炉乾燥質量	容器 NO.						
	(炉乾燥試料+容器)質量 g						
	容器質量 g $m_s$ g						
土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>							
平均値 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>							

特記事項

$$m'_a = \frac{\rho_w(T)}{\rho_w(T')} \times (m'_a - m_f) + m_f$$

$$\rho_s = \frac{m_s}{m_s + (m'_a - m_b)} \times \rho_w(T)$$

(社)地盤工学会規格準用

(様式52)

土の粒度試験(ふるい分析)  
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

全 試 料				2mmふるい通過試料(沈降分析を行わない場合)							
含 水 比	容器 NO.			含 水 比	容器 NO.						
	$m_a$	g			$m_a$	g					
	$m_b$	g			$m_b$	g					
	$m_c$	g			$m_c$	g					
	w	%			$w_1$	%					
平均値w			%	平均値 $w_1$			%				
(全試料+容器)質量				g	(2mmふるい通過試料+容器)質量				g		
容器( NO. )質量				g	容器( NO. )質量				g		
全 試 料 質 量				m	g	2mmふるい通過試料の質量				$m_1$	g
全試料の炉乾燥質量 $m_s = \frac{m}{1+w/100}$				g	2mmふるい通過試料の炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1+w_1/100}$				g		
2mmふるい残留分の水洗い後の試料		(試料+容器)質量		g	全試料の炉乾燥質量に対する2mmふるい通過試料の炉乾燥質量比				$\frac{m_s - m_{os}}{m_s}$		
		容器( NO. )質量		g							
		炉乾燥質量 $m_{os}$		g							

2mmふるい残留分 $m_{os}$ のふるい分析

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	通過質量百分率P(d)
mm		g	g	m(d)	$\Sigma m(d)$	$\frac{\Sigma m(d)}{m_s} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_s}) \times 100$ %
75							
53							
37.5							
26.5							
19							
9.5							
4.75							
2							

2mmふるい通過分 $m_{1s}$ のふるい分析(沈降分析を行わない場合)

ふるい	容器No.	(残留試料+容器)質量	容器質量	残留試料質量	加積残留試料質量	加積残留率	加積通過率P	通過質量百分率P(d)
$\mu m$		g	g	m(d)	$\Sigma m(d)$	$\frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	$(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}}) \times 100$ %	$\frac{m_s - m_{os}}{m_s} \times P$ %
850								
425								
250								
106								
75								

特記事項  $w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$   $m_a$  : (試料+容器)質量  $m_c$  : 容器質量  
 $m_b$  : (炉乾燥試料+容器)質量

(社)地盤工学会規格準用

(様式53)

土の粒度試験(2mmふるい通過分分析)

(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 試験日 平成 年 月 日 請負会社名
工種名 試料採取地点 測定者 印

Table with 2 main columns: 2mmふるい通過試料 and 土粒子の密度 ρs g/cm³. Rows include container NO., mass measurements (ma, mb, mc, w1), and formulas for M and m1s.

沈降分析

Table for sedimentation analysis with 10 columns: ①測定時間, ②経過時間, ③浮ひよりの読み, ④測定時の水温, ⑤有効深さ, ⑥粒径d, ⑦補正係数, ⑧加積通過率P, ⑨通過質量百分率P(d).

ふるい分析(沈降分析を行う場合)

Table for sieve analysis with 8 columns: ふるい, 容器No., (残留試料+容器)質量, 容器質量, 残留試料質量, 加積残留試料質量, 加積残留率, 加積通過率P, 通過質量百分率P(d).

特記事項 懸濁液の体積V=1000cm³ w=[(ma-mb)/(mb-mc)] x 100
T°Cに対する水の密度 ρw g/cm3 ma : (試料+容器)質量
T°Cに対する水の粘性係数 η pa\*s mb : (炉乾燥試料+容器)質量
mc : 容器質量

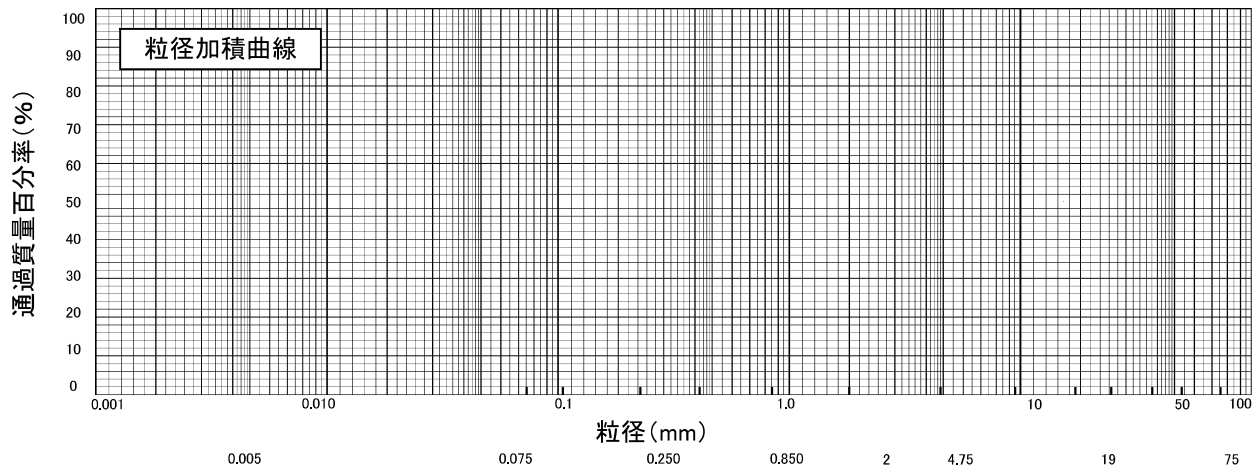
(社)地盤工学会規格準用

(様式54)

土の粒度試験（粒径加積曲線）  
(JIS A 1204、JGS 0131)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 請負会社名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試料番号 (深さ)					試料番号 (深さ)		
	粒径mm	通過質量百分率%	粒径mm	通過質量百分率%	粗 礫 分 %		
ふるい分析	75		75		中 礫 分 %		
	53		53		細 礫 分 %		
	37.5		37.5		粗 砂 分 %		
	26.5		26.5		中 砂 分 %		
	19		19		細 砂 分 %		
	9.5		9.5		シルト分 %		
	4.75		4.75		粘 土 分 %		
	2		2		2mmふるい通過質量百分率 %		
	0.850		0.850		425 $\mu$ mふるい通過質量百分率 %		
	0.425		0.425		75 $\mu$ mふるい通過質量百分率 %		
	0.250		0.250		最大粒径 mm		
	0.106		0.106		60% 粒径 $D_{60}$ mm		
	0.075		0.075		50% 粒径 $D_{50}$ mm		
沈降分析					30% 粒径 $D_{30}$ mm		
					10% 粒径 $D_{10}$ mm		
					均等係数 $U_C$		
					曲率係数 $U_C'$		
					土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>		
					使用した分散剤、溶液濃度、溶液添加量		



粘土	シルト	細砂	中砂	粗砂	細礫	中礫	粗礫
----	-----	----	----	----	----	----	----

特記事項 \_\_\_\_\_

(社)地盤工学会規格準用

(様式55)

突固めによる土の締固め試験(測定)  
(JIS A 1210、JGS 0711)

工事名 \_\_\_\_\_ 試験日 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 試料採取地点 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験方法		土質名称			
試料の準備方法	乾燥法、湿潤法	ランマー質量 kg		モールド	内径 cm
試料の使用方法	繰返し法、非繰返し法	落下高さ cm			高さ <sup>1)</sup> cm
含水比	試料分取後 $w_0$ %	突固め回数 回/層			容量 $V$ cm <sup>3</sup>
	乾燥処理後 $w_1$ %	突固め層数 層			質量 $m_1$ <sup>2)</sup> g

測定 NO.		1	2	3	4
(試料+モールド)質量 $m_2$ <sup>2)</sup> g					
湿潤密度 $\rho_t$ g/cm <sup>3</sup>					
平均含水比 $w$ %					
乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>					
含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 $m_a$ g				
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$ g				
	容器質量 $m_c$ g				
$w$ %					
含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 $m_a$ g				
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$ g				
	容器質量 $m_c$ g				
$w$ %					
測定 NO.		5	6	7	8
(試料+モールド)質量 $m_2$ <sup>2)</sup> g					
湿潤密度 $\rho_t$ g/cm <sup>3</sup>					
平均含水比 $w$ %					
乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>					
含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 $m_a$ g				
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$ g				
	容器質量 $m_c$ g				
$w$ %					
含水比	容器 NO.				
	(試料+容器)質量 $m_a$ g				
	(炉乾燥試料+容器)質量 $m_b$ g				
	容器質量 $m_c$ g				
$w$ %					

特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は底板を含む。

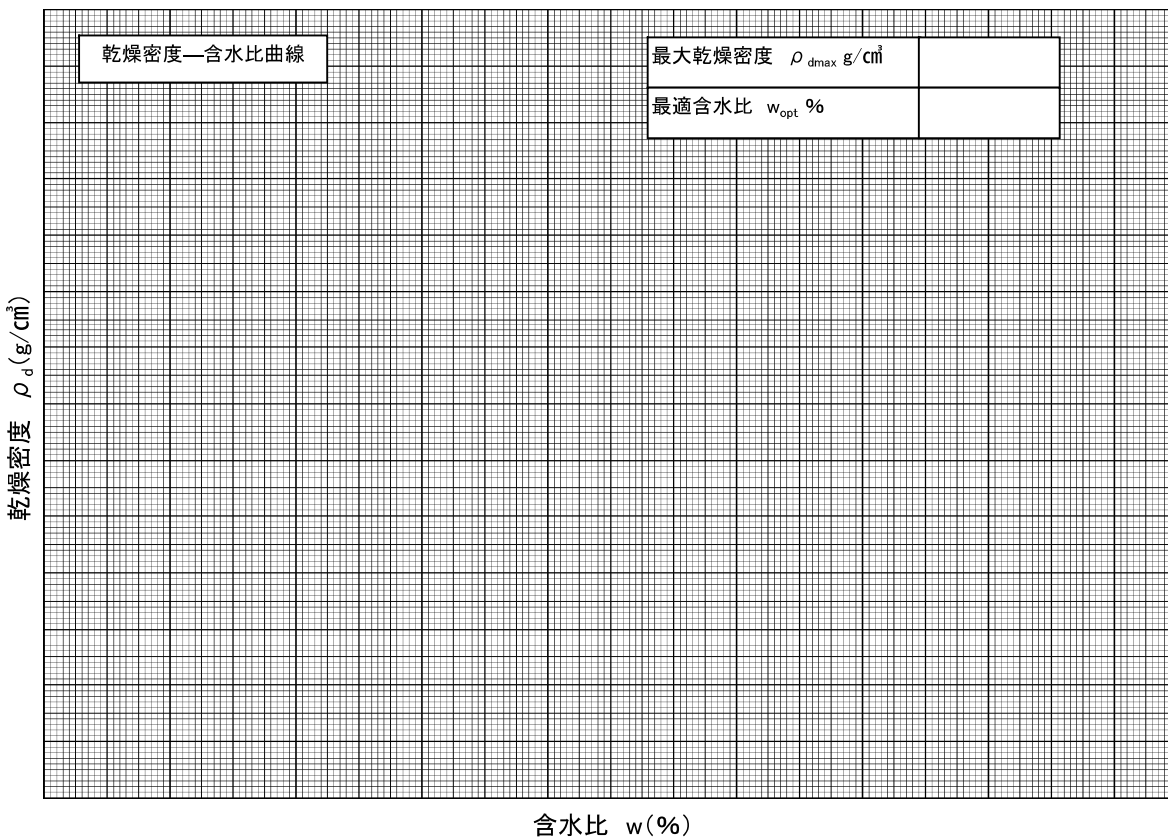
$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1+w/100} \quad w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

(社)地盤工学会規格準用

(様式56)

突固めによる土の締固め試験(締固め特性)  
(JIS A 1210、JGS 0711)

工事名		試験日 平成 年 月 日				請負会社名			
工種名		試料採取地点				測定者 印			
試験方法		土質名称							
試料の準備方法		乾燥法、湿潤法		ランマー質量 kg		土粒子の密度 $\rho_s$ g/cm <sup>3</sup>			
試料の使用方法		繰返し法、非繰返し法		落下高さ cm		試料調製前の最大粒径 mm			
含水比	試料分取後 $w_0$ %			突固め回数 回/層		モールド	内径 cm		
	乾燥処理後 $w_1$ %			突固め層数 層			高さ <sup>1)</sup> cm		
測定 NO.		1	2	3	4	5	6	7	8
平均含水比 $w$ %									
乾燥密度 $\rho_d$ g/cm <sup>3</sup>									



特記事項

1) 内径15cmのモールドの場合はスペーサーディスクの高さを差引く。

ゼロ空気間隙曲線の計算式

$$\rho_{dsat} = \frac{\rho_w}{\rho_w/\rho_s + w/100}$$

(アスファルト関係)

(様式57)

アスファルト試験成績一覧表

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

分類			
用途			
製造会社			
密度 (25°C/25°C)	規格	規格	規格
軟化点 °C	規格	規格	規格
針入度 (0°C, 200g, 60秒)	※		
	(25, 100, 5)	規格	規格
	(46, 50, 5)	※	
伸度	(25°C)cm	※	
	(15)cm	規格	規格
	(10)cm	※	
	(5)cm	※	
薄膜加熱重量変化 %	規格	規格	規格
薄膜加熱後の針入度 %	規格	規格	規格
蒸発後の針入度比 %	規格	規格	規格
三塩化エタン可溶分 %	規格	規格	規格
引火点 °C	規格	規格	規格

※は分類につき3,000ton以上使用するものに行う。  
アスファルトメーカーが行った場合は日本道路協会規格による。

試験所名 \_\_\_\_\_



(様式58)

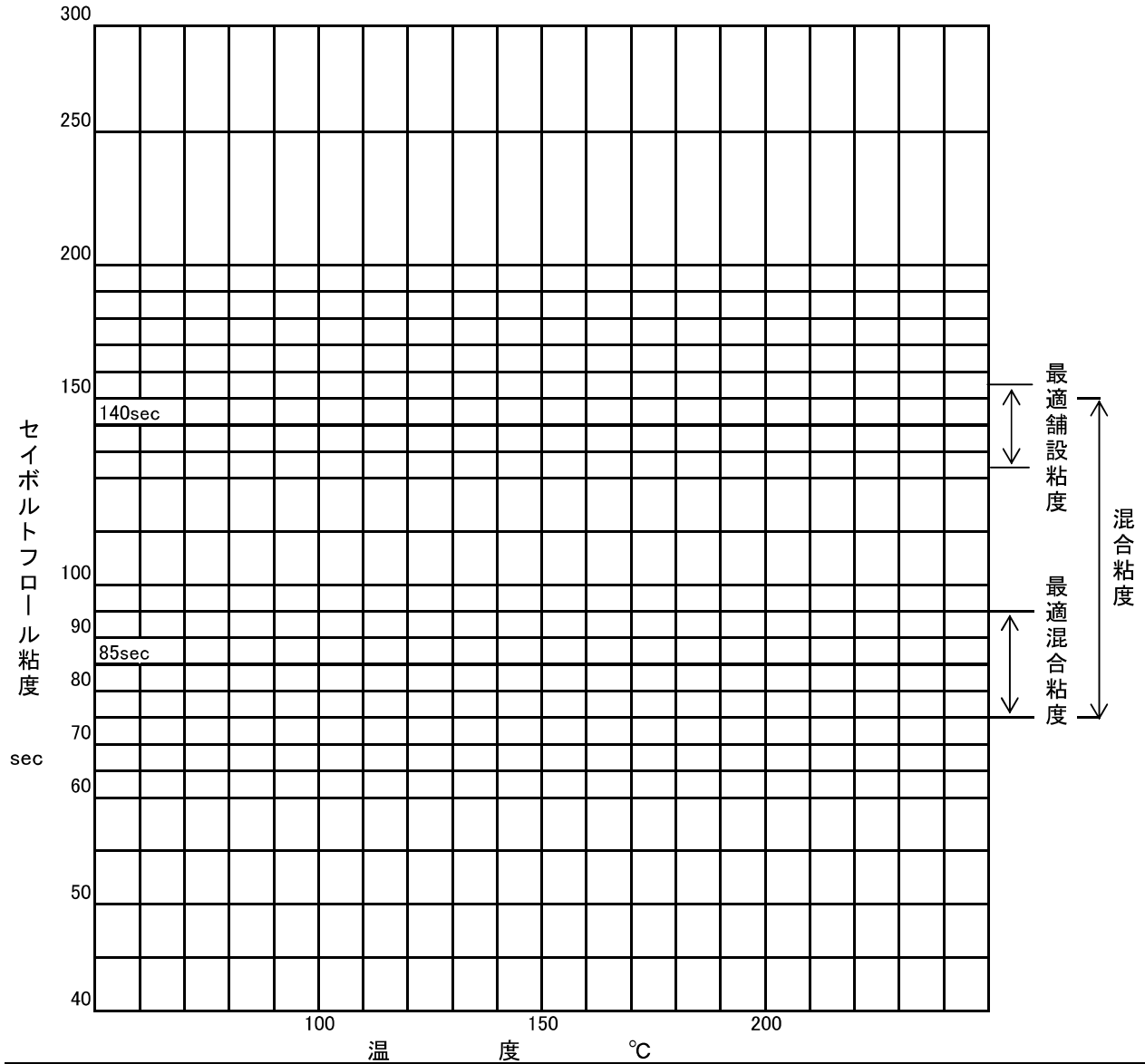
アスファルトの粘度温度表

工事名 \_\_\_\_\_

請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ 印



	記号	種類	加熱温度	混合温度	舗設温度
最適温度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
現場管管度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
混合舗設間温度低下推定					± °C

(様式59)

粗骨材試験成績一覧表(碎石)

工事名		請負会社名			
工種名		測定者			印
種類					
用途					
産地					
生産会社					
原石種類					
粒度 (通過量%)	53 mm				
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2				
	9.5				
	4.75				
	2.36				
密度					
単位体積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>					
" (軽装) kg/m <sup>3</sup>					
安定性 %					
吸水率 %					
すりへり減量 %					
洗い試験で失われる量 %					
軟石量 %					
細長、扁平(質量) %					
" (筒数) %					
総試料質量 kg					
アルカリシリカ反応 試験(JIS A 5308)	試験結果				
	試験方法				
試験年月日					
試験機関名					

(様式60)

細骨材試験成績一覧表(砂)

工事名		請負会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産地	河川名				
"	市郡町村				
生	産会社				
粒度 (通過量%)	4.75 mm				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
	F・M				
密	度				
単位体積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>					
" (軽装) kg/m <sup>3</sup>					
安	定性 %				
吸	水率 %				
洗い試験で失われる量 %					
粒形判定実績率					
総試験質量 kg					
アルカリシリカ反応	試験結果				
試験(JIS A 5308)	試験方法				
試験年月日					
試験機関名					
備考					

(様式61)

石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

種類				
用途				
産地				
生産会社				
原石の種類				
粒度 (通過量%)	9.5 mm			
	4.75			
	2.36			
	0.6			
	0.3			
	0.15			
	0.075			
密度				
単位体積質量(標準) kg/m <sup>3</sup>				
” (軽装) kg/m <sup>3</sup>				
安定性 ① %				
吸水率 ② %				
すりへり減量 ③ %				
0.075通過分のP. I. ④				
加熱変質 200 °C ⑤				
フロ一試験 ⑥ %				
浸水膨張 ⑦ %				
はく離試験 ⑧ %				
総試料質量 kg				
試験年月日				

注 ①～③はスクリーニングスのみとする。

④～⑧は原石が石灰岩以外の石粉及び合成した場合の0.075通過分の1割以上がスクリーニングス0.075通過分で占める場合のスクリーニングスの0.15通過分について行う。

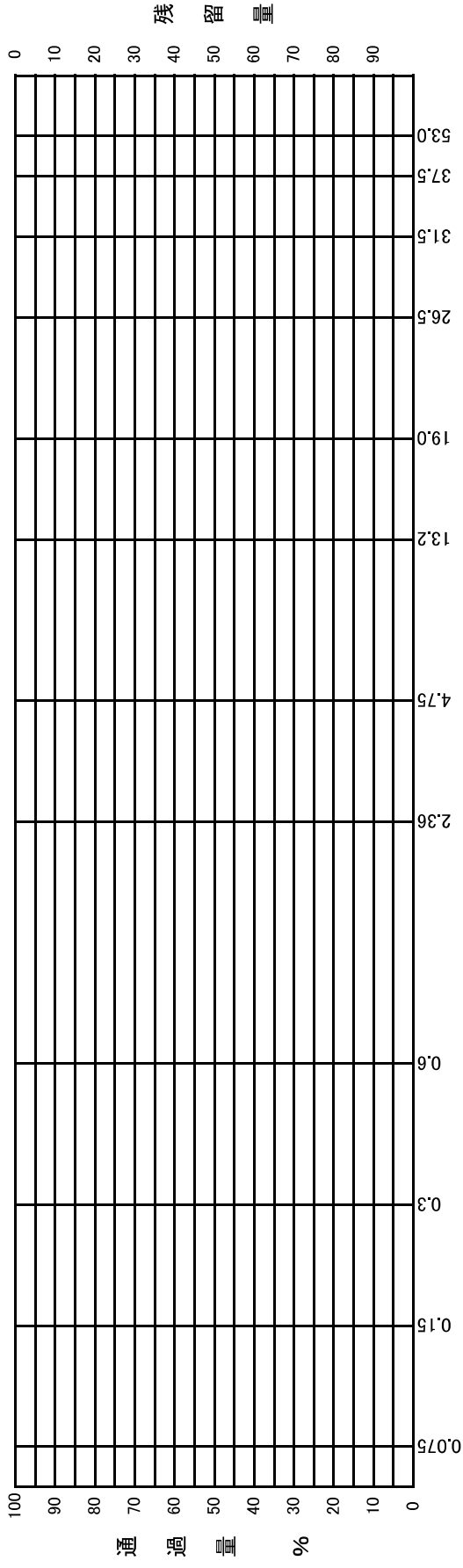
⑤は200°C ⑥はセメントモルタル用フローテーブルで15回落下200mmの時の石粉に対する水の重量比

(様式62)

骨材粒度曲線表(アスファルト)

試験日 平成 年 月 日

工事名										
工種名										
請負会社名										
測定者										
印										



凡例		粒度 mm										
①		④		⑦								
②		⑤		⑧								
③		⑥		例	種類、産、用途							

(様式63)

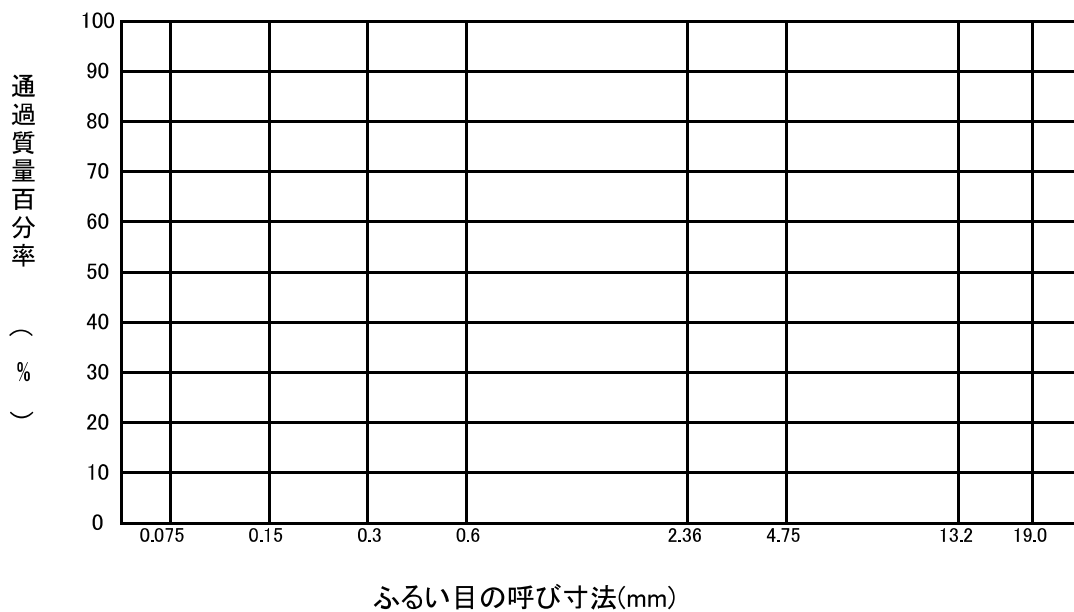
合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果

ふるいの呼び寸法 (mm)	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.

2. 使用予定骨材の配合百分率の決定

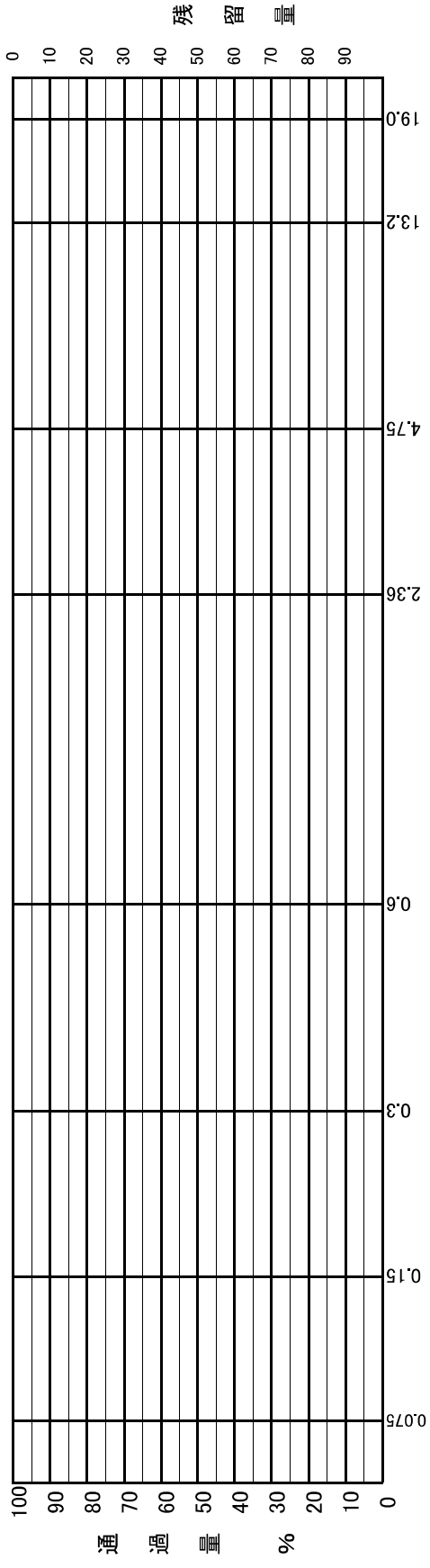


(様式64)

骨材の推定変動範囲(細骨材及びスクリーニングス)

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_ 印  
工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_



凡例		範囲	
①		③	配合設計に 用いた値
②		④	

(様式65)

骨 材 配 合 率 の 密 度 補 正

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印

							(記号)	(合材種別)
							( )	( )
骨 材 種 類							計	
配 合 率 a							100	
密 度 b							-	
a × b							(c)	
補 正 配 合 率 $\frac{a \times b}{c} \times 100$							100	





(様式67)

合成粒度曲線(室内試験)

工事名 \_\_\_\_\_

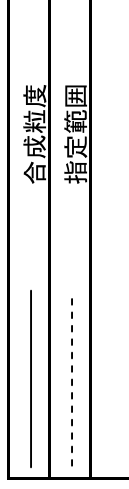
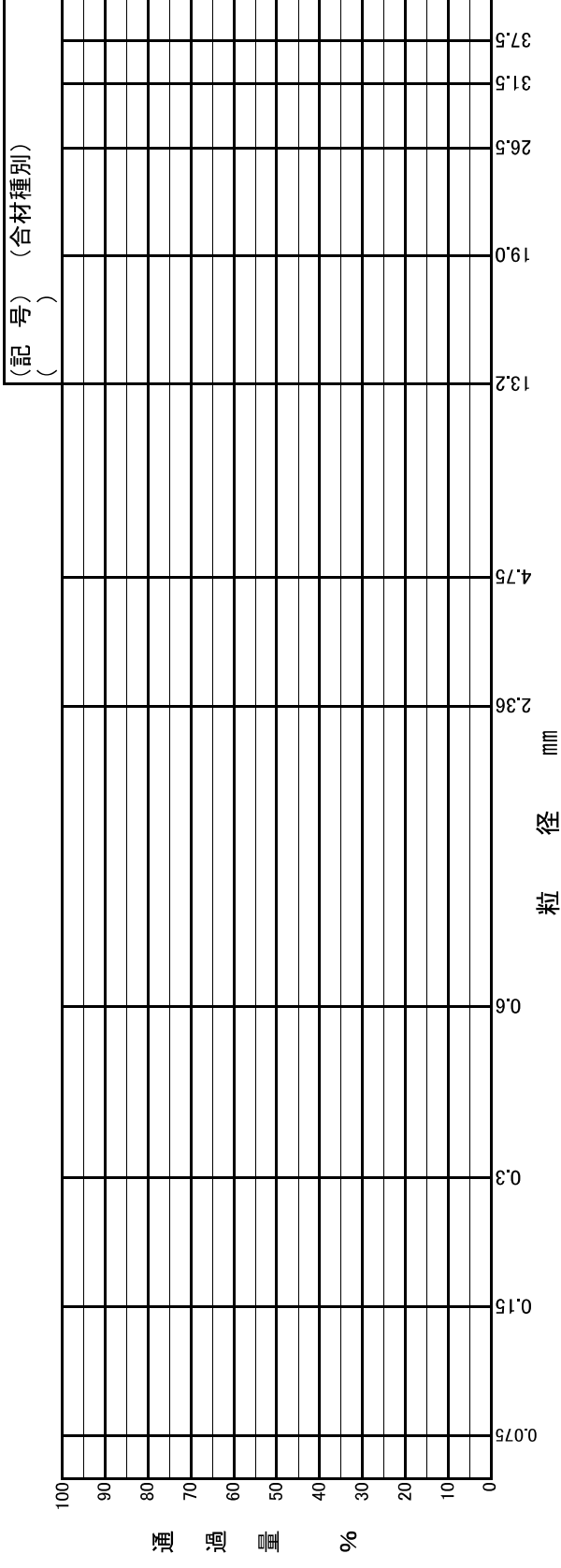
工種名 \_\_\_\_\_

請負会社名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_

試験日 平成 年 月 日

印



(様式68)

試験配合表 (アスファルト量別)

工事名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_

試験日 平成 年 月 日

請負会社名 \_\_\_\_\_  
測定者 \_\_\_\_\_ 印

配合区分	アスファルト量%	粗骨材%		細骨材%	石粉 %	合計 %	摘要
A							
B							
C							
D							
E							
F							

(アスファルト針入度 )

合記  
材 ( 号 )  
種 ( )  
別

・配合区分はアスファルト量0.5%又は0.3%毎に区分すること



(様式70)

アスファルト混合物の安定度試験(マシーナル式)

試験日 平成 年 月 日

工事名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_

請負会社名 \_\_\_\_\_  
測定者 \_\_\_\_\_

印

突固め回数		アスファルトの加熱温度 (°C)		骨材の加熱温度 (°C)		混合温度 (°C)		締固め温度 (°C)							
試験の温度条件															
供試体 番号	アスファルト 混合率 (%)	厚さ (cm)		質量 (g)		密度 (g/cm³)		アスファルト 容積率 (%)	空げき率 (%)	飽和度 (%)	安定度 (kN)		フロー値 (1/100cm)		
		1	2	3	4	平均	空中				表乾	水中		ゲージの 読み	実測値
①	②	③		④	④'	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭

マシーナル安定度試験結果

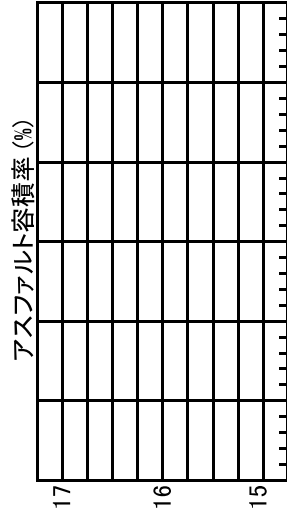
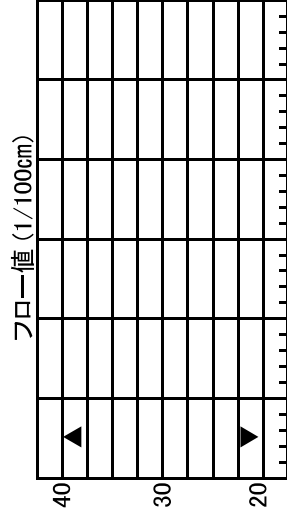
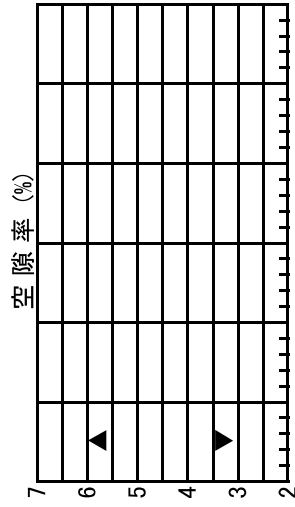
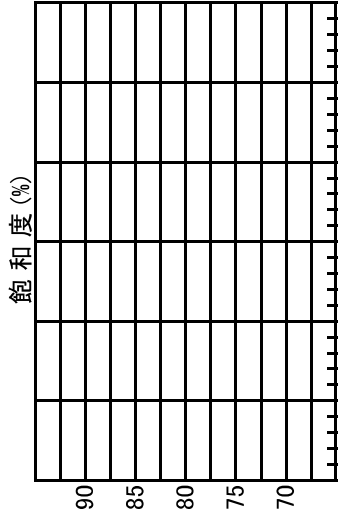
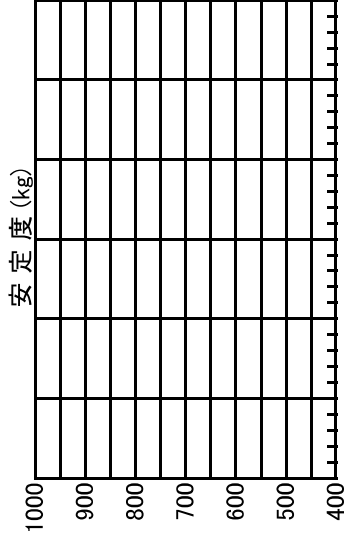
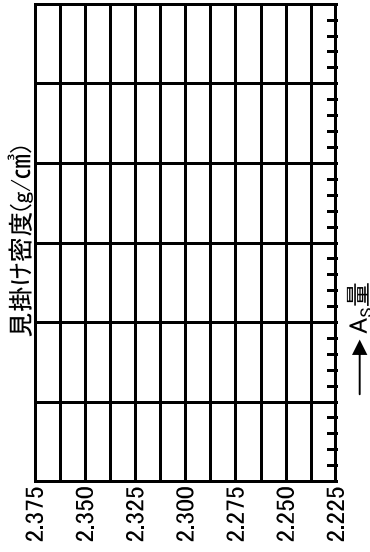
(様式71)

試験結果図表

工事名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_

請負会社名 \_\_\_\_\_  
 測定者 \_\_\_\_\_ 印

(記号) (合材種別)  
 ( )



注) : 上記の基準値の線は密粒度の1例を示しているの、合材種類が異なる場合は、「アスファルト舗装要綱」により適宜置き換えること。

(様式72)


マーシャル試験による基準アスファルト量

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_  
 工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

(記号) (合材種別)  
( )

安定度									
フロ－値									
空隙率									
飽和度									
アスファルト量	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	%	
許容範囲									

注：1. それぞれの範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付記する。

許容範囲は4項をすべて満足する範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付す。

2. 上表の基準値は、密粒度の1例、種別が異なる場合は「アスファルト舗装要綱」による。

基準アスファルト量A

許容範囲の最大値 ①	%
〃 最小値 ②	%
A = [ $\frac{\text{①} + \text{②}}{2}$ ]	%

注：アスファルト混合物の一般的な配合設計では、所要の性状を満足し切れない特殊条件のある場合は、現地の実情、過去の実績を勘案して①～Aの範囲で適宜決めること。  
 なお、「特殊条件」とはアスファルト舗装要綱による「特殊条件」のことである。

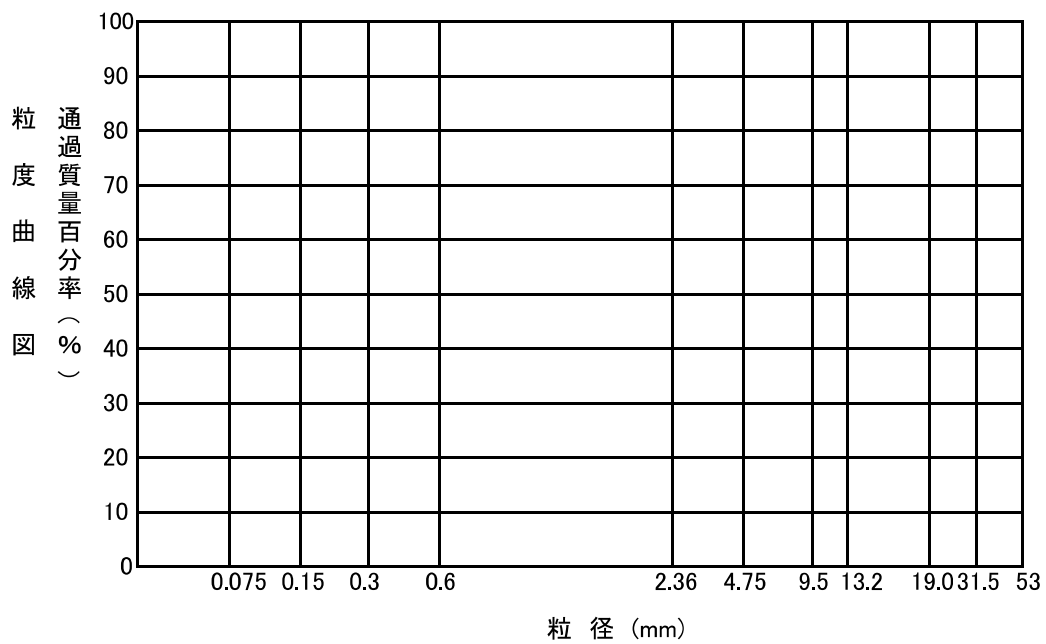
(様式73)

フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印

試験日 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 午前 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分  
試料採取時刻 午後 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分  
骨材の産地又は製造会社名 \_\_\_\_\_

骨材の種類 (配合率) 通過ふるい																合成 粒度	
各フルイ目の通過質量百分率及び配合率%	53																
	37.5																
	31.5																
	19.0																
	13.2																
	9.5																
	4.75																
	2.36																
	0.6																
	0.3																
	0.15																
	0.075																
	31.5																
	19.0																
	13.2																
	9.5																
	4.75																
2.36																	
0.6																	
0.3																	
0.15																	
0.075																	





(様式74)

粗骨材のすりへり試験  
(JIS A 1121)

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_  
工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

試験日	平成 年 月 日 曜			天候			
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)	乾燥温度 (°C)			
試験料							
とどまるふるい (mm)	通るふるい (mm)	各群の質量 (g)	各群の質量 百分率 (%)	粒度区分	球の数	回転数	① 試験前の 試料の質量(g)
	2.5						
2.5	5						
5	10						
10	15						
15	20						
20	25						
25	40						
40	50						
50	60						
60	80						
合計			100.0				
②試験後1.7mmふるいにとどまった試料の質量 (g) _____							
③すりへり損失質量 ①-② (g) _____							
④すりへり減量 $\frac{③}{①} \times 100$ (%) _____							
考 察 _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____							



(様式76)

路面の平坦性試験表(標準偏差)

工事名		測定車線	
		測定器の種類	
施工地名	市 町	測定年月日	年 月 日
	郡 村		
請負会社名		測定者	印

標準偏差の計算	$\bar{R} = \frac{R_1 + R_2 + R_3 + \dots + R_n}{n}$ $\sigma = \frac{\bar{R}}{d_2}$	d <sub>2</sub> の値	
		グループの大きさ	d <sub>2</sub>
		6	2.53
		7	2.70
		8	2.85
		9	2.97
		10	3.08

グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)

注) 1. 測定値を作成したのち本表で標準偏差を求める。  
 2. 測定方法は「アスファルト舗装要綱」による。

(様式77)

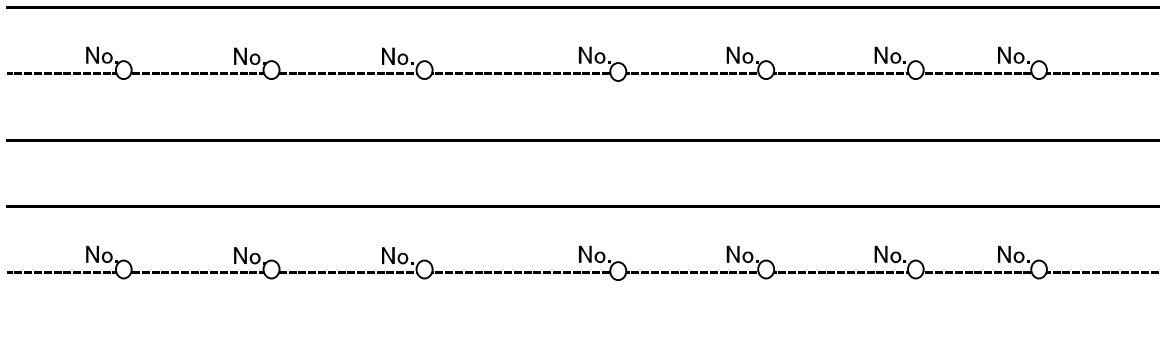
プルーフローリング試験

工事名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工種名 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

項目	事項				備考
天候		測定面の含水状況			
試験区間	No.	~No.			
載荷車	型式		接地圧		
載荷状況	予備載荷回数	回	本載荷速度	km/h	

試験結果

視察展開図	
視察記事	
異常箇所の処置	

(品質管理関係)

(様式78)

̄X - R 管理データシート

工 事 名 \_\_\_\_\_ 請負会社名 \_\_\_\_\_

工 種 名 (名称) \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

項目名(品質特性) \_\_\_\_\_ 作 成 者 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位
	上 限	下 限	
	+	-	

日 標 準 量	
資 料 大 小	
資 料 間 隔	
作 業 機 械 名	

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 ΣX	平均値 X̄	範 圍 R		
			X <sub>1</sub>	X <sub>2</sub>	X <sub>3</sub>					
		1								
		2								
		3								
		4						平均	X̄	R̄
		5						累 計		
		小計						小 計		
		6								
		7								
		8								
		9						平均	X̄	R̄
		10						累 計		
		小計						小 計		
		11								
		12								
		13								
		14								
		15								
		16								
		17								
		18								
		19						平均	X̄	R̄
		20						累 計		
		小計						小 計		

(注) 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。  
 2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記 事

記 入 要 領	1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。	n	d <sub>2</sub>	A <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>
	2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。	2	1.13	1.88	3.27
	3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。	3	1.69	1.02	2.57
	4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。	4	2.06	0.73	2.28
		5	2.33	0.58	2.11



(様式80)

X - R 管理図

設計基準値	工事		事業所名		年月日		
	日	標準量	期	間	年	月	日
品質特性	規格値限界		請負会社名		年	月	日
測定単位	上限値	下限値	現場代理人				
測定方法	試料		測定者				
作業機械名	間隔						
- X							
R							
組の番号							
記事							

注) 1.管理図は、別紙X-R管理データシートから記入する。  
 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

(様式81)

X-Rs-Rm 管理データシート

名 称		工 事 名		測定	自	年 月 日
品質・特性		事業所名		期間	至	年 月 日
測定単位		日標準量		請負会社名		
規格 限界	上限値	試料	大 き さ	現場代理人		
	下限値		間 隔	測定者		
設計基準値		作業機械名		作成者		

月日	試験 番号	測 定 値				計 Σ	平 均 値 $\bar{X}$	移 動 範 囲 $R_s$	測 定 値 内 囲 $R_m$	$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
		a	b	c	d					$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
	1								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	2									$\bar{X}$	$\bar{R}_s$	$\bar{R}_m$	
	3								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	4								累計				
	5								小計				
	小計								小計				
	6								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	7								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	8								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	小計								累計				
	小計								小計				
	9								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	10								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	11								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	12								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	13								累計				
	小計								小計				
	14								$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$				
	15								$D_4 \cdot \bar{R}_s =$				
	16								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	17												
	18												
	19								平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$	
	20								累計				
	小計								小計				
記 事									n	$d_2$	$D_4$	$E_2$	
									2	1.13	3.27	2.66	
									3	1.69	2.57	1.77	
									4	2.06	2.28	1.46	
									5	2.33	2.11	1.29	

- 注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。  
 2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。

----- 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個(平均値  $\bar{x}$  を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。



(様式82)

X - Rs - Rm 管理データシート の 2

月日	試験 番号	測 定 値 計					平均 値 X	移 動 範 圍 Rs	測 定 値 内 の 範 圍 Rm				
		a	b	c	d	Σ							
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
											X	Rs	Rm
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
記 事										n	$d_{31}$	$D_4$	$E_3$
										2	1.13	3.27	2.66
										3	1.69	2.57	1.77
										4	2.06	2.28	1.46
										5	2.33	2.11	1.29

注) 1. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。

----- 上記の管理限界を運用する区間を示す。

2. 以下、最近20個(平均値  $\bar{x}$  を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

(様式83)

X - Rs - Rm 管理図

設計基準値	工事	標準	名	事業所	名	年月日
名称	日	標	量	期	自	日
性質	規格	値	上限値	間	至	日
測定単位	限界	下	下限値	請	負	日
測定方法	試	大	大きさ	現	場	日
作業機械名	料	間	間隔	測	定	日

X	Rs	Rm	組の番号	記事	[Grid]																							
					[Grid]																							
					[Grid]																							

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理データシートから記入する。  
2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

(様式84)

平成 年度

工事アルバム 冊

事業所

支 所

請負会社名 :

(測点No. ~No. )

測 定 者 :

印

月 日	工 種	記 事

注) 1. 標題には施工年度、工事名を記入し、1/3冊、2/3冊・・・と番号をつけ、当冊に収められている測点No.を( )内に記入する。

2. 記事欄は撮影補足説明、整理及び保存番号、既済検査記録等主要な説明事項を記入する。

3. 本様式は、アルバムの表紙あるいは内紙に設けるものとする。

(様式85)

年月日：

# 品質証明書

工事名：

品質証明記事					
品質証明事項	実施日	箇所	品質証明員氏名	印	記事

社内検査した結果、工事請負契約書、図面、仕様書、その他関係図書に示された品質を確保していることを確認したので報告します。

請負者 住所

氏名

(様式86)

### コンクリート 週強度結果総括表

工事名 \_\_\_\_\_

請負者 \_\_\_\_\_

㊟

測定者 \_\_\_\_\_

㊟

番号	供試体 採取日	第 週 強度試験日	測定値			計 $\Sigma X$	平均値 $\bar{X}$	移動範囲 Rs	摘 要
			X1	X2	X3				
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
計									

移動範囲

max =

mim =

$\bar{X}$  =

Rs =

上記 成果総括表は20点以下の場合使用する。



(様式88)

## 塗 装 膜 厚 測 定 表

工 事 名		工 種 名		現場代理人					
				監理技術者					
ロット番号		請負会社名		主任技術者					
				施工管理担当者					
塗 装 系				基準膜厚合計値	μ m				
測定時点	工場塗装終了後		現場塗装開始前		現場塗装終了後				
測定月日						測定者	印		
測定位置	測 定 値							$X - \bar{X}_i$	$(X - \bar{X}_i)^2$
	1	2	3	4	5	計	平均 $\bar{X}_i$		
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
合計									

平均 値	$\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N X_i$	
標準偏差	$S = \sqrt{\frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^N (\bar{X} - X_i)^2}$	

(様式89)

## 塗 装 膜 厚 測 定 成 績 表

ロット番号		現場代理人	
		監理技術者	
		主任技術者	
		施工管理担当者	
測定時点		目標塗装膜厚	μ m

平均値 X および標準偏差 S 平均値 $\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N X_i =$ μ m 標準偏差 $S = \sqrt{\frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^N (\bar{X} - X_i)^2} =$ μ m	判定 標準偏差 S =      標準膜厚 × 0.2 = 平均値 $\bar{X} =$ 標準膜厚 × 0.9 = 5点平均値 =      標準膜厚 × 0.7 = の最小値
---	---

度数分布			
膜厚 X <sub>i</sub> のクラス	中央値	チェック	度数 F <sub>i</sub>
～			
～			
～			
～			
～			
～			
～			
～			

ヒストグラム

